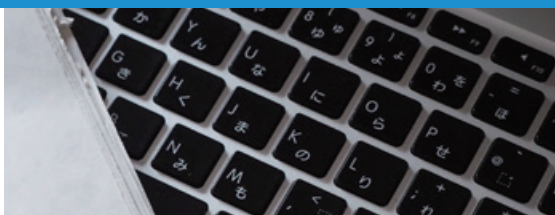


Daiwabo Planet

第107期 中間ビジネスレポート
平成29年4月1日～平成29年9月30日





ダイワハウスホールディングス株式会社
代表取締役社長

野上 義博

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、中間ビジネスレポートをお届けするにあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

業績について

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用・所得環境の着実な改善や持続する好調な企業収益に牽引され個人消費や設備投資が底堅く推移するとともに、海外経済の緩やかな成長を背景に輸出や生産が持ち直しの動きをみせるなど、景気は回復基調を辿りました。

このような情勢のもと、当社グループは中期経営計画「イノベーション21」第二次計画の最終年度を迎え、「アライアンス戦略の提携および顧客ニーズに適合した組織編成とサプライチェーンの構築によるグローバル成長市場・地域での事業領域の拡大」「顧客価値創造のためのマーケティング力の強化と問題解決型のソリューションビジネスを基軸とした競争優位の事業モデルの構築」「グループ会社の資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の一体化によるシナジー効果と全体最適の発揮」を事業方針に掲げ、グループの強い結束力のもと、新たな成長ステージを目指した戦略実行を推し進めてまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は3,128億1千7百万円、営業利益は53億3千万円、経常利益は52億5千3百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は46億8千9百万円となりました。

今後の見通しと取組み

今後の経済見通しにつきましては、政府の経済対策や金融緩和策の継続により景気回復は続くものと推察されますが、新興国・資源国経済や米国の経済政策運営の動向、地政学的リスクの高まりなどから、依然として不透明な状況にあります。

また、事業を取り巻く環境も、一層のグローバル化の進展に伴い、国際市場における企業間競争は、ますます熾烈化する様相を呈しております。

このような環境のなか、当社グループにおきましては、グループ協業体制の強化と戦略的アライアンスの実践により、成長市場・地域をターゲットとした新規市場開拓と販売シェア拡大に努めるとともに、顧客ニーズを先取りした販売戦略と競争優位のある独自商品の開発を推し進めることにより、事業領域の拡大に取り組んでまいります。

また、ホールディングス体制のもと、異なる特性を有する「ITインフラ流通事業」「繊維事業」「産業機械事業」を中核3事業に据え、それぞれの経営資源を一体化させ、「シナジー効果」と「全体最適」を最大限に発揮することで、グループ企業価値の向上を図ってまいります。

さらには、コーポレートガバナンスを経営上の最重要課題と認識し、グループ各社の連携のもと、最適なガバナンス体制の確立により、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

どうか株主の皆様には引き続き倍旧のご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

グループ経営理念

私たちは、創造と革新、融合のシナジーによって、グローバル市場でお客様第一に新たな価値を生み出し、人間社会と地球環境に役立つ未来を実現します。

中期経営計画 「イノベーション21」第二次計画

計画期間

平成28年3月期～平成30年3月期

経営基本方針

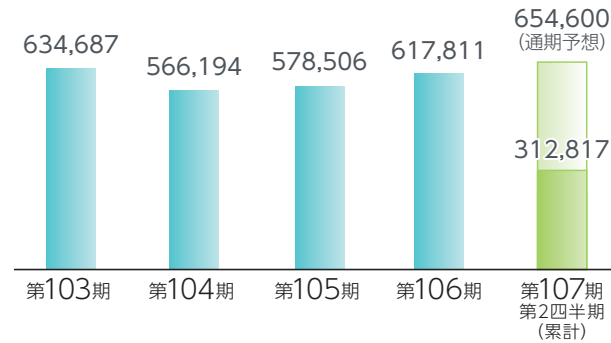
- 成長が見込める市場、地域での事業拡大
- 顧客価値創造型ビジネスへの進化
- 国際マーケットにおけるコーポレートブランドの価値向上

戦略方針

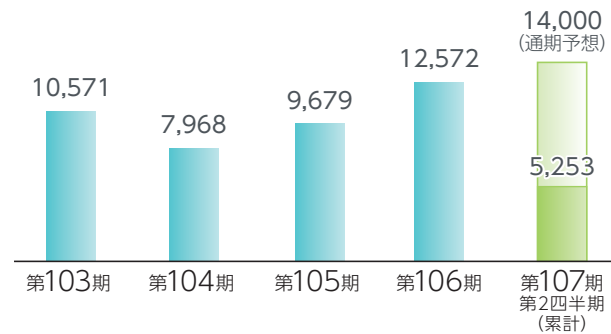
- グループ協業と強力な外部パートナーとのアライアンスの結実
- ソリューションビジネスによる新商品・新事業の創出
- グローバル人材の育成・強化

● 連結財務ハイライト (単位: 百万円)

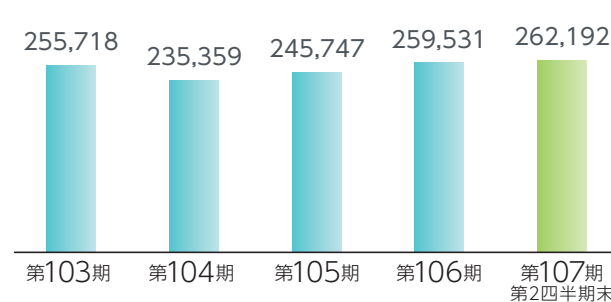
売上高



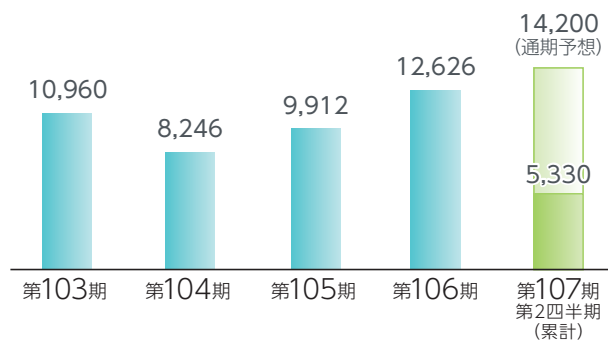
経常利益



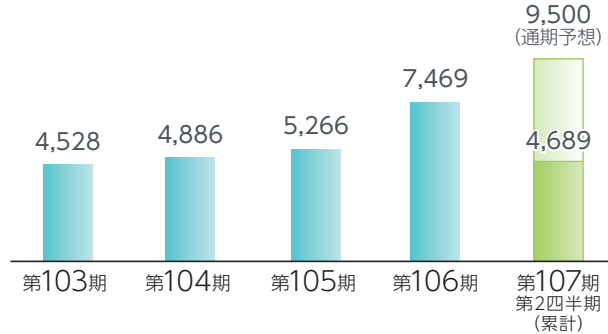
総資産



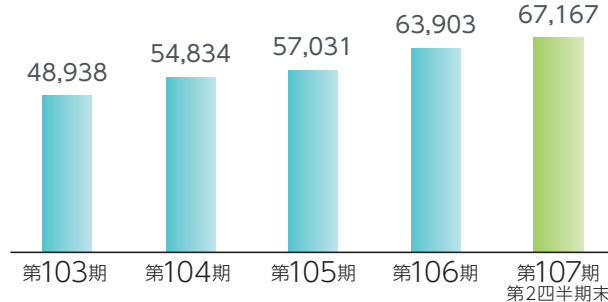
営業利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



純資産



● 四半期連結貸借対照表の要旨 (単位: 百万円)

科目	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	207,380	201,104
固定資産	54,812	58,426
有形固定資産	40,970	43,676
無形固定資産	3,682	4,984
投資その他の資産	10,159	9,765
資産の部合計	262,192	259,531
負債の部		
流動負債	165,465	163,233
固定負債	29,559	32,394
負債の部合計	195,024	195,628
純資産の部		
株主資本	67,352	64,417
資本金	21,696	21,696
資本剰余金	7,863	7,869
利益剰余金	37,895	35,129
自己株式	△ 103	△ 279
その他の包括利益累計額	△ 929	△ 1,179
その他有価証券評価差額金	1,658	1,372
繰延ヘッジ損益	24	25
為替換算調整勘定	△ 2,060	△ 1,938
退職給付に係る調整累計額	△ 551	△ 638
非支配株主持分	745	665
純資産の部合計	67,167	63,903
負債・純資産の部合計	262,192	259,531

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

● 四半期連結損益計算書の要旨 (単位: 百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	312,817	283,472
売上原価	286,095	258,140
売上総利益	26,722	25,332
販売費及び一般管理費	21,391	20,791
営業利益	5,330	4,540
営業外収益	394	391
営業外費用	471	571
経常利益	5,253	4,360
特別利益	1,289	247
特別損失	858	1,746
税金等調整前四半期純利益	5,684	2,861
法人税、住民税及び事業税	2,118	1,765
法人税等調整額	△ 1,158	△ 1,419
法人税等合計	960	346
四半期純利益	4,723	2,515
非支配株主に帰属する 四半期純利益	34	39
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,689	2,475

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位: 百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,992	△ 406
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,630	△ 682
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,214	△ 3,095
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 57	△ 213
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,351	△ 4,398
現金及び現金同等物の期首残高	14,042	16,161
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,394	11,762

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

さらなる成長の鍵となる
ダイワボウグループ

3つの事業の柱

グループ協業体制の強化により、
コーポレートブランド「ダイワボウ」の
市場優位性を確立します。



グローバル事業拠点

- 蘇州大和針織服装有限公司
- 大和紡工業(蘇州)有限公司
- ダイワボウノイ 上海事務所
- 欧安睦(上海)商貿有限公司

Daiwabo Hong Kong Co., Limited

- P.T.DAIWABO NONWOVEN INDONESIA
- P.T.DAIWABO INDUSTRIAL FABRICS INDONESIA
- P.T.DAIWABO SHEETEC INDONESIA
- P.T.DAIWABO GARMENT INDONESIA
- P.T.PRIMATEXCO INDONESIA



ITインフラ流通事業

売上高

2,719億5,800万円



上半期の概況

法人向け市場では、国内企業の収益改善などを背景にIT投資が堅調に推移するなか、市場におけるパソコン需要の回復基調を的確に捉え、地域密着営業を推進し、首都圏をはじめ全ての地区で前年同期を上回る実績となりました。なかでも民間企業向けでは通信事業者や製造業における需要が拡大し、文教分野向けでは、Wi-Fi等のICT(情報通信技術)環境整備の動きと相俟って、受注が伸長しました。また、パソコン販売を軸とした周辺機器やソフトウェアを含めた複合提案の推進が実を結び、前年同期を上回る収益となりました。

一方、個人向け市場では、消費者の購買意欲改善に向けた動きがみられ、モニタをはじめとした周辺機器の販売が好調に推移しました。

今後の取組み

当事業においては、地域密着営業を基本として、メーカー・販売パートナーとの協業を推進し、IT市場の回復に伴う販売機会を確実に捉えつつ、技術革新による新たな需要に対応することで、さらなる事業拡大に取組んでまいります。具体的には、成長分野として「ネットワーク機器」「仮想化ソフトウェア」「ストレージ」「ネットワークカメラ」の取扱いを強化し、サービス&サポートやソリューションでの「グループ協業」や「サブスクリプション型ビジネス」「モバイルデバイスビジネス」に注力いたします。また、政府が整備を推進する文教分野への取組みも強化を図ってまいります。

引き続き、パソコンをはじめとした端末の拡販に拘り、市場シェアを維持・向上させることで、市場優位性を確保し、端末と同時に導入検討される周辺機器・ソフトウェアの需要取込みを図り、業績拡大を目指します。

トピックス

ダイワボウ情報システム

『DIS わあるど in とちぎ宇都宮』を開催

ダイワボウ情報システム株式会社(DIS)は、平成29年7月19・20日の両日、栃木県宇都宮市においてICT関連商品・サービスの総合展示会「DIS わあるど in とちぎ宇都宮」を開催し、2,065人のお客様にご来場いただきました。「ICTとIoTで実現する地方創生」をテーマに「IoTをはじめ「働き方改革」「VR(仮想現実)/AR(拡張現実)」といった新しい注目分野や、「クラウド」「教育」などICT需要が活発な分野の最新テクノロジーを利用した製品やソリューションを多数展示しました。また、栃木県が注力産業とする観光や農業に関連するIoT製品やパネルディスカッションなど、地域ならではの展示に来場者の関心が集まりました。今後も地域に密着した活動を通して、需要喚起と拡大に努めてまいります。





繊維事業

売上高

❖ 342億1,100万円



上半期の概況

合繊部門では、衛生材用途向け原綿や制汗・除菌関連を中心とする不織布の売上は増加しましたが、原燃料価格の高騰により利益面では低下を余儀なくされ、レーヨン部門では、対米向け防災素材は苦戦を強いられました。

また、機能製品部門では、フィルターの拡販が進みましたが、樹脂加工部門では、コンテナ関連商品の受注が減少しました。

一方、衣料製品部門では、カジュアル製品は海外生産拠点を活用した主要顧客向けの企画提案販売が好調に推移し、インナー製品は機能素材を使用した春夏物商品の受注が増加するとともに、ブランド製品は子ども向けを中心とした専門店への販路拡大により収益を確保しました。

今後の取組み

当事業においては、「競争優位性の創出による成長戦略の加速化」「グローバルアライアンス確立による新たな事業領域の展開」「グループマネジメント改革による連結経営力の強化」を基本方針に掲げ、新たな成長ステージを目指しております。

合繊部門では、アライアンス戦略の推進と海外生産拠点の活用により、地産地消ビジネスを進め、レーヨン部門では、グループ協業による川下戦略の拡大と海外向け機能商材の拡販に努めてまいります。また、機能資材部門では、マーケティング力の強化により、海外での生産・販売の拡大を図ってまいります。

さらに、衣料製品部門では、紙糸やポリプロピレン短繊維、フタロシアニン加工などの独自素材・加工の活用により、新規商品の開発・新規市場の創造に取り組んでまいります。

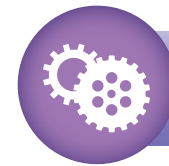
一方、海外販売拠点である大和紡績香港有限公司においては、成長するアジア市場に向けての顧客開拓を進めてまいります。

トピックス

ダイワボウアドバンス

『2018年prince春・夏展示会』を開催

ダイワボウアドバンス株式会社は、2018年春夏物より、テニスラケットでバリューのある「prince」ブランドを冠としたライフスタイルウェアの販売をスタートします。これに先立ち、2017年8月3・4日に東京秋葉原、9・10日には大阪本社で「2018年prince春・夏展示会」を開催しました。展示会では、個々のライフスタイルにおけるワークアウトにフォーカスし「ランニングシーン」「ヨガ・フィットネスシーン」「トレーニングシーン」の3つのカテゴリーに分けてアピールを行い、来場された取引先様からは、カラー展開・スタイリングなどが好評を博しました。今後もスポーツ&カジュアルシーンを華やかに演出してまいります。



産業機械事業

売上高

❖ 50億8,300万円



上半期の概況

工作機械部門では、主力の立旋盤について、国内は航空機・鉄道分野が堅調に推移したことに加え、建設機械・半導体関連分野も回復傾向にあり一定の受注は確保したものの、業績面では米国のオイル・ガス分野や中国市場の低迷による前年の受注減少の影響を受け、振るいませんでした。

一方、自動機械部門では、医薬品・食品分野を中心に受注は堅調に推移しましたが、売上計上時期が第3四半期へずれこむものもあり、収益は低迷しました。

今後の取組み

当事業においては、工作機械部門では、主力の立旋盤について、国内は小型機の好調が中大型機へ波及しているため、堅調な航空機・鉄道分野に加え、各分野における更新需要が見込まれる機台をピックアップし拡販してまいります。海外は航空機分野を中心に米国では展示会等を通じて実機のPRを行い、中国では高付加価値商材の製造を請けているユーザーへの販売を強化してまいります。

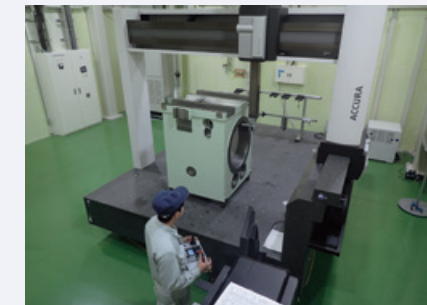
自動機械部門では、見本市への出展を通じて、医薬品や食品分野などの人手不足解消を図る企業に加え、中国の医薬品メーカーへ製造ラインの提案を進めてまいります。

トピックス

オーエム製作所

長岡工場に恒温室を新設

株式会社オーエム製作所は、長岡工場内の組立工場に、室内温度を変えられる開閉式タイプとドイツ製の3次元測定機を設置した密閉式タイプの2つの恒温室を新設しました。主力の立旋盤について、ユーザーによって異なる設備機械の使用環境に対応した室内温度に設定し性能を把握することで、ニーズに応じた加工精度の測定が可能となりました。同社では恒温室の新設に伴い、立旋盤の加工精度が保証できる体制が整ったことにより、提案型営業を一段と強化してまいります。また、平成29年11月9・10日に長岡工場内で内覧会を開催し、VT7-1600Miなどの新製品と新設した恒温室を披露しました。今後もユーザーの設備投資案件に積極的に関わり支援してまいります。



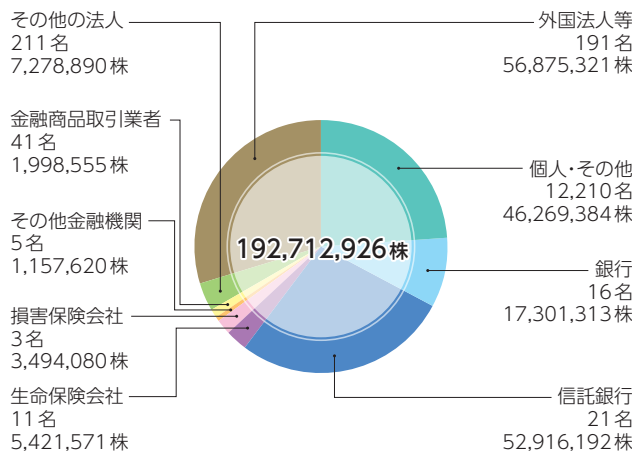
株式の状況

(平成29年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 — 400,000,000株
- 発行済株式の総数 — 192,712,926株
(注) 上記のうち395,216株を自己株式として保有しております。
- 株主数 — 12,709名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,535
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,920
ダイワボウ従業員持株会	6,558
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,161
GOVERNMENT OF NORWAY	4,420
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	4,153
第一生命保険株式会社	4,000
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	3,944
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,781
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	3,556

所有者別株式分布



会社概要

(平成29年9月30日現在)

社名 ダイワボウホールディングス株式会社
 資本金 21,696,744,900円
 創立日 昭和16年4月1日
 事業拠点 本社
 大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号
 御堂筋ダイワビル (〒541-0056)
 TEL.06-6281-2325

東京事務所
 東京都中央区日本橋富沢町12番20号
 日本橋T&Dビル (〒103-0006)
 TEL.03-4332-8221

連結従業員数 5,761名

役 員	氏名
代表取締役会長	阪 口 政 明
代表取締役社長	野 上 義 博
代表取締役社長執行役員	北 孝 一
代表取締役副社長執行役員	安 永 達 哉
取締役専務執行役員	門 前 英 樹
取締役専務執行役員	佐 脇 祐 二
取締役専務執行役員	西 村 幸 浩
社外取締役	幸 後 和 壽
社外取締役	土 肥 謙 一
常勤監査役	平 岡 好 信
監査役	小 川 仁 司
社外監査役	藤 木 久 司
社外監査役	植 田 益 司
常務執行役員	辰 巳 敏 博
常務執行役員	中 村 信 治
常務執行役員	杉 本 靖 朋
執行役員	常 石 茂 樹
執行役員	中 野 直 樹
執行役員	梅 澤 覚
執行役員	斉 藤 清 一
執行役員	福 嶋 一 成
執行役員	有 地 邦 彦



(平成29年9月30日現在)

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
基準日 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
☎ 0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.daiwabo-holdings.com/ir/publication/index.php>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。

ホームページのご案内

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、IR情報や会社案内、事業案内など様々な情報をご案内しております。

<http://www.daiwabo-holdings.com/>

単元株式数の変更・株式併合について

当社普通株式について、平成29年10月1日を効力発生日として単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、10株を1株に併合いたしました。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

マイナンバーのお届出に関するお問合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問合わせください。
- 証券会社とお取引がない株主様
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部までお問合わせください。
☎ 0120-094-777 (通話料無料)